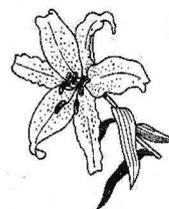




やまゆり



第17号
2017

公益社団法人 八王子市シルバー人材センター安全管理委員会 発行

平成29年3月21日

安全就業はおお客様への誠意です

奥さんが忘れ物を取りに…… → 4頁

事故ヒヤリング — 事例研究報告

平成28年度発生事故の状況把握と再発防止対策検討のため、事故発生会員に対してヒヤリングを実施しました。

事故発生総件数 10件 (平29年1月31日現在。内ヒヤリング実施8件)

障害事故 7件 (ヒヤリング実施6件)

賠償事故 3件 (ヒヤリング実施2件)

ヒヤリング担当者の話：ほとんどの人にヒヤリングを実施しました。面会してみると、皆さん、恐縮し、申し訳ないという反省の気持ちが強く感じられました。皆さん良い人で、きちんとしている方々でした。少し親切すぎて事故に至ったケースもあるようです。一般的に、“ついうっかり”、“何も考えない状態”、“意識

が年齢に追いついていない(体力等)がみられます。中にはグループ作業で他の人のことばかりに注意が向き、自分がおろそかになったケースもありました。皆さん反省しており、叱る必要はあまり感じられませんでした。読者の皆さんもこれらのケースを読んで、ご自身の参考にしていただきたいと思います。

<障害事故>

発生日時 (年齢)	事例	原因	対策・注意点
平成28年 5月23日 9時30分頃 (77歳)男性	マンションの清掃中モップを通路の壁に立てかけた。そのモップが倒れかけたので慌てて抑えようとした時、右膝を壁にぶつけてしまった。半月板損傷・内出血・ギプスで固定。	①就業中の足元、周りの状況の確認不足。 ②うっかり ③慌ててしまった。	①モップを横に寝かせて通路の端に置く。 ②作業中は注意力を増し、慌てず、慎重に行動する。
平成28年 5月23日 14時25分頃 (78歳)男性	市東浅川保健福祉センターの低木植木をヘッジトリマーで剪定作業中、近接駐輪場に止めてあったバイクが、急に発進し、その大音響に驚き振り返った時、使用していた器具の左手が滑り、左手小指が刃に接触し裂傷。	①作業前に周囲の状況把握が甘かった。②作業スペースの確保が不十分であった。③作業に集中出来ていなかった。(作業リーダーであり新人を含め5人で作業していた。全体の管理と自分のノルマを気にしていた)	①作業前の状況確認をしっかりと行う。 ②作業中の注意力を適度に高める ③全体作業の管理と自己の作業の区分を意識して行う。
平成28年 6月28日 11時55分頃 (82歳)男性	市広報7月1日号配布中、民間アパートの2階から1階へ降りる途中、足を滑らせて地上まで落下。(階段は高さ3m、16段の1/3降りた所から落下。雨上がりで滑りやすい状態であった)	①滑りやすい靴を履いていた。 ②注意不足。③急いでいた。④気をぬいた。⑤あと少しで終わりになるところで、少し疲れていた。	①適した靴を履く。 ②足元に注意する。 ③無理をしない。 ④気を抜かない。
平成28年 6月30日 9時00分頃 (73歳)男性	家事援助就業のため、発注者宅を訪問。玄関で靴ひもを解いて、立ちあがった際階段の角に頭をぶつけ、頭皮4cm位創傷。	①周囲の状況確認不足。 ②注意不足。	①足元頭上等の安全確認。②作業前の気持ちの引き締め。

平成 28 年 7 月 19 日 9 時 30 分頃 (76 歳)男性	お寺の除草及び清掃で。作業中、籠に草・紙くず等を入れて階段を登り切った参道で石につまずき、左手をついた。その時に左手を骨折した。	①現場の周囲環境の確認不足。 ②慣れているところなので油断していた。	①作業中は気を抜かない。 ②足元をよく見て歩く。 ③年令を意識する。(気持ちと体力との差を意識する)
平成 28 年 9 月 6 日 10 時 50 分頃 (65 歳)女性	マンション清掃作業で玄関を掃除している時、枯れ葉と思ひ素手でつかんだところ、スズメバチであった。その蜂に中指を刺された。	 ①蜂と枯れ葉の見間違え。 ②確認不足	①作業中は気を抜かない。②慌てずしっかり確認。 ③ゴミはゴミ取ばさみを使用する事。

<賠償事故>

発生日時 (年齢)	事 例	原 因	対策・注意点
平成 28 年 6 月 24 日 11 時 55 分頃 (65 歳)女性	マンション清掃作業中、1 階エレベーター乗降フロアで蛍光灯を点検修理している業者が蛍光灯のカバーを外し床に置く。そのカバーが汚れていたのので洗ってあげようと思ひ、持って 3 m 位歩いた所でカバーが崩れる様に壊れてしまった。(劣化していた)	①作業以外の余計な事をした。 ②取り扱ひ物を丁寧に扱わなかった。 ③物の見極めが甘かった。	①仕様書以外の作業は行わない事。(「請負」の理解が必要) ②物の取り扱ひは慎重に ③壊れそうな物は、発注者に聞き確認の上着手する。
平成 28 年 7 月 25 日 11 時頃 (74 歳)女性	家事援助でトイレ便器清掃中、便座開閉蓋の根本部分を壊してしまった。此の便器は全自動開閉式でボタン操作方式であったが、手動で無理に動かし破損させてしまった。	①操作方法を知らなかった。	①取り扱ひの解らないものは理解するまで聞いてから着手する事。

ヒヤリ・ハット

平成 28 年度ヒヤリ・ハットのまとめをお届けします。回答をお寄せいただいた皆様に厚く御礼申し上げます。集まりました内容は下記のようなものでした。いずれも私たちの誰もが経験しそうなことです。対策を読者の皆さんも一緒に考えましょう。



平成 28 年度ヒヤリ・ハットまとめ

- ・報告数 全体 24。内訳・職種 配布：14。清掃：1。管理＝運動場：3、公園：1、学校：2。家事援助：1。他：2。
- ・乗り物他 自転車：5。歩行：17。不明：2 (記入不十分)。
- ・可能性 or 事故 衝突：3。転倒：12。負傷：4。接触：1。
- ・内容 大丈夫と思った：3。深く考えなかった：3。気付かなかった：3。あわてていた：1。バランスを崩した：5。相手が無謀：3。危険予知不足：2。危険箇所：2。

【内容】市広報配布時、濡れた落ち葉を踏み、滑って転びそうになった。〈急いでいた。濡れた葉が滑ることを気にしていなかった〉【対策】平坦なところでも注意する。

【内容】広報配布時、車が狭い道から一時停止せず出てきて接触しそうになり、ヒヤリとした。建物の影で見えなかった。〈よく見えなかった。大丈夫と思った〉【対策】見通しの悪い場所の安全確認。

【内容】広報配布時、両手にもものを持って階段を上っ

ていてつまずき、転倒して配布物を散乱させた。〈大丈夫と思った。体のバランスを崩した〉【対策】階段は片手を空け、手すり側を歩く。

【内容】広報配布中、玄関先に数段の段差。色柄が同じで気づかず転びそうになった。【対策】よく見て、急がず歩く。

【内容】自転車で広報配布中、歩行者通路のそばを自動車が猛スピードで通過し、転倒しそうになった。【対策】後方を振り返り、車が通過してから歩行

者通路を通る。

[内容] 階段の多い住宅で広報配布中、下るとき靴が階段の側面に当たり転げ落ちそうになった。階段の幅が狭い。〈早く下りようとした。少し疲れていた〉[対策] 階段はゆっくり、手すりも利用する。

[内容] 自転車で広報配布中、広い横断歩道で、あと6m位で向こう側に着くというとき、左折してきた自動車が止まらず、接触しそうになった。[対策] 左・右折車に注意する。「アイコンタクト」をとる。

[内容] 広報配布。舗道上で、停めてあった自転車を動かそうとしたとき。歩行者にぶつけそうになった。[対策] 自転車を動かすときは、周りの安全を確認する。

[内容] 広報配布。狭い歩道で自転車(私)と自転車(相手:80歳くらいのお年寄り)がすれ違ったとき、相手がよろめいてきて接触した。接触したときに互いに止まったので、怪我はなかった。〈大丈夫だと思った。体のバランスを崩した〉[対策] 狭い歩道ですれ違うときは、自転車から降りてすれ違うようにする。

[内容] 広報配布中。バイクが逆走してきてぶつかりそうになった。[対策] 逆走もあり得ると、頭に入れておく。

[内容] 管理:運動場。観覧席の清掃でブロワー(送風機)を背負って移動中、ブロワーを鉄柵に引っかけ、転倒しそうになった。〈深く考えなかった。体のバランスを崩した〉[対策] 機器を背負って移動するときは、正規の通路を利用する。鉄柵を通る場合は背中から下ろす。

[内容] 管理:運動場。バックネットに掛けてあったグラント整備用のトンボブラシが強風で落下。〈風が強いと落下の恐れがあると、頭に入れておかなかった〉[対策] 天候にも注意する。

[内容] 管理:運動場。運動場内の野球場に向かう階段で、階段の土砂を取り除こうとしたとき、足を踏み外しそうになった。30℃以上の暑さと高湿度で、朝から外仕事で余り水分補給しなかった。竹箒が破損。後ろ向き作業中で階段を下りようとした。〈よく見えなかった。深く考えなかった。疲れていた〉[対策] 高温・多湿の場合はできるだけ外作業を控える。体調を整え、焦らず周囲の状況に配慮する。設備・機器などの整備・補充に普段から気をつける。

[内容] 管理:公園。公園内で歩いてゴミ回収中、通路で足を滑らせ、転倒しそうになった。雨上がりの滑りやすい通路だった。[対策] 雨上がりは階段のあるコースにする。

[内容] 管理:学校。日常用務。生徒さんたちが滑って転ばないように、モップがけ(水拭き)のときは、しっかり絞って拭く。[対策] 雨降りの日は、床が濡れるため特に注意して拭くようにしている。

[内容] 管理:学校開放員。大きな音がして用務員室のブザーが鳴る。直ちに用務員室火災発信器の地区表示で火災発生場所を確認し、3F東防火戸へ急行。普段は開いている防火戸が地震の衝撃で閉じられてしまったので、何とか原状回復し、用務員室にもどり火災受信機で正常に戻っていることを確認した。校舎老朽化による工事中で、防火戸の閉め方に問題があったようだった。日曜日で在校は私一人、事故はなかった。〈日常業務の傍ら防災機器の機能や取り扱いをマスターし、日常の巡回で防火戸の位置など熟知していた〉[対策] 学校施設開放時、校舎開閉業務時に地震や火災が発生した場合に適切な対応や処置がとれるよう、マニュアル作成や現場の熟知、防災機器取り扱いの習熟など、現地配属の際に研修を行うことが望ましい。

[内容] 清掃。倉庫内で。中二階へ続く階段の下に置いてあった茶紙のビニール袋をとろうとして、鉄製の階段の角に頭をぶつけた。倉庫のスペースが狭く、茶紙保管スペースに問題あり。帽子はかぶっていたが、ヘルメットはかぶっていなかった。〈気がつかなかった。やりにくい場所だった〉[対策] よく注意する。ヘルメットを装着する。

[内容] ゴミ分別作業。段ボールを整理しているとき。段ボール解体にカッターを使用するが、カッターが段ボールから外れて、足の太ももに当たりそうになった。〈大丈夫だと思った。無意識に手が動いた〉[対策] 注意して、慌てず作業する。

[内容] 歩いていて、小さな段差でも、ヒヤリ・ハットは時たまある。[対策] 年のせいで直らない。

[内容] ヒヤリ・ハットの経験はないが、電球の球切れ交換時にはしごを使うときは、特に注意して作業を行うよう心がけている。[対策] はしごは一段ずつ、ゆっくりと。

安全パトロール報告 安全管理委員 壹ツ石 正

年明け最初の安全パトロールを1月13日(金) 野崎安全支援委員、山下事務局次長、私の3人で、除草1件、植木手入れ6件のパトロールを行いました。

パトロール先では突然の訪問にも拘らず、15～20分位の時間とはいえ、各会員には、時には手を休め、好意的かつ積極的な協力により、巡回の目的を達成することができました。

パトロールの結果、安全を第一に心掛けて作業が進められておりましたが、一部のところで次のようなことが見られました。

① 急斜面で三脚梯子の設置が不安定と思われる、木が細く安全ベルトが使用できない(ベルトを掛けると木がもたない)ところでの植木の手入れ

② 車の交通量が程々に多い車道に面したところでの植木の手入れ

③ 道路にカラーコーンを設置し車道の一部を占有使用しての植木の手入れ

など。

これらについては、①見積り等で安全性に係る判断を重視し、第三者による受注可否判断が必要ではないか、②交通量の多い車道に面した作業では、安全上、ガードマン等の

検討が必要ではないか、③車道を占有使用するときは、事前に警察の許可を必要とするか等、今後、取り扱い方の検討が必要ではないかと感じました。

安全管理について今一度考えてみると、事故発生の原因は大きく分けて、

“人的条件によるもの”、“機械・道具等の物的条件によるもの”、“作業環境によるもの”の3点に分類されます。特に、『人的条件によるもの』には、①疲労状態によるもの、②注意力の不足によるもの、③肉体的・生理的条件によるもの、④感情の不安定によるもの、⑤作業手順・作業方法に問題のあるもの等

が原因と考えられます。

これらの解決策として「T.B.M(ツールボックスミーティング)」を活用し、作業開始前に安全について再確認をされては如何でしょうか。

【T.B.Mとは、作業開始前の短い時間を使って、工具箱(ツールボックス)のそばに集まって仕事の進め方について話し合い(ミーティング)をするという現場で行う安全作業の一つの方法です】 釈迦に説法かもしれませんが、参考になれば幸甚です。

今後とも、会員皆様方の協力のもと、安全第一にシルバーセンターの事業を発展させていきたいと思います。

自転車安全講習会 3/8 大和田市民センター

3月8日午後の講習会は八王子警察にお願いしました。自転車だけでなく、自動車・歩行者などの相互関係につきお話と映像で詳しく解説されました。参加は36名。

印象的な話を一つ。自宅を出た車が、すぐ先でバックし、後ろを歩いていた高齢者に衝突、高齢者は倒れて後頭部を打ち死亡という事故。ある人が奥さんを乗せて家から出て直ぐのところ、奥さんが「忘れ物を取りに行ってくる」と車を降りた。主人(運転手)は通行の邪魔と思い、車を左に寄せようとバックした。動いた距離は5m。かなり低速だった。外付け後部ミラーもあり、もちろんバックミラーも見えた。リアウインドには被害者の胸から上が見えたはず。この通りは通行が少なく、人は普段はあまり通らない。環境をよく知っているはずの運転手が不十分な確認のままバックして事故となった。“人は来ない”という思い込みがあった。“よく知っている”ところは意外に危険です。また高齢者はほんの少しの衝撃で転倒することがあります。転倒した場合の“受け身力”も低下しています。

講習参加者からは、「出かけてくるのは億劫だが、参加してみるとやはり得るところはある」という声が聞かれました。



挨拶する高部安全管理委員会委員長

奥さんが忘れ物を取りに